

# ライブラリアンからのリプライ —九州大学の取り組みをもとに—

九州大学附属図書館 事務部次長(兼)学術サポート課長・図書館DX支援室長  
大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻 准教授

渡邊 由紀子

watanabe.yukiko.935@m.kyushu-u.ac.jp



2023年9月20日(水) JADH2023ワークショップ(国文学研究資料館)

「研究者とライブラリアンとの対話:データ駆動型人文学の推進に向けたラウンドテーブル」



九州大学

# アウトライン

1. オープンサイエンス時代の大学図書館
2. 九州大学附属図書館のデジタルアーカイブと人材養成
3. データ駆動型人文学の研究を推進するために

基本理念（抄）： **障壁なきアクセス**を可能にし、それらを活用するための環境を提供することで、国立大学の教育研究活動を支え、社会における新しい知の共有や創出の実現に貢献する

## 重点領域1. 知の共有

蔵書を超えた<知識や情報>の共有

- 目標1-1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存
- 目標1-2) 図書館資料の整備と利用のための保存
- 目標1-3) 知識や情報の発見可能性の向上

デジタル化、  
デジタル  
アーカイブ  
の構築

## 重点領域2. 知の創出

新たな知を紡ぐ<場>の提供

- 目標2-1) 知を創出する場の拡大・整備・提供
- 目標2-2) 社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

## 重点領域3. 知の媒介

知の交流を促す<人材>の構築

- 目標3-1) 多様な人材との協働
- 目標3-2) 国立大学図書館職員的能力向上

デジタル化資  
料への対応

# 「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について」

- 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービス
  - 既存のコンテンツのデジタル化と、学術研究等の成果として今後生み出されるコンテンツのオープン化を進めるとともに、デジタル化されたコンテンツの利活用を支援する様々なサービスと現行業務について、利用者志向の立場から再構築
  - 国立国会図書館の蔵書のデジタル化を中核に、各大学図書館等がこれとは重複しない形でデジタル化を進め、それらへのアクセス環境を最適化することで全国規模のデジタル・アーカイブ基盤を構築
- 上記機能やサービスの実現に求められる人材
  - 大学図書館職員は、大学における学問の在り方や研究のライフサイクルを理解することが不可欠
  - 各大学は、大学図書館に専門人材を配置できるよう組織体制と人的資源配分を見直す





単一キャンパスの広さでは国内最大規模  
(東西3km、南北2.5km、272ha)



- 統合移転完了時に図書館組織を再編
- 人社系資料の集中化を機に、資料電子化・保存担当の専門職員(係長級)をeリソース課に配置



Kyushu University VISION 2030  
「総合知で社会変革を牽引する大学」





うつほ物語絵巻[細川文庫]

☐ 本文あり

文庫名 画像種別 活字対応

上田家兵学書(107)  
模写文庫(1)  
江島文庫(132)  
江藤正澄関係資料(246)  
大井文庫(和漢古書のみ)(132)  
音無文庫(電子化済み)(112)  
狩野文庫(309)  
+ 雅俗文庫(整理作業中)(7359)  
漢籍(文庫外)(264)  
+ 旧玉泉館古文書(一部)(275)  
+ 支子文庫(一部)(367)  
桑木文庫(電子化済み)(1992)  
江崎文庫(254)  
+ 内田文庫(4)  
J. M. ケインズ書簡・著作・研究書コレクション(電子化済み)(1)  
国際法史コレクション(電子化済み)

簡易検索 詳細検索

## 貴重資料デジタルアーカイブ

九大コレクションに登録された九州大学が所蔵する文庫・文書群等の目録データを検索できます。一部の資料についてはデジタル画像を公開しています。



九大コレクションで公開している九州大学附属図書館所蔵資料のデジタル化画像は、一部を除き、事前の利用申請をすることなく、無償で、改変・商用利用も含めた自由な利用が可能です(2018年10月より)。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

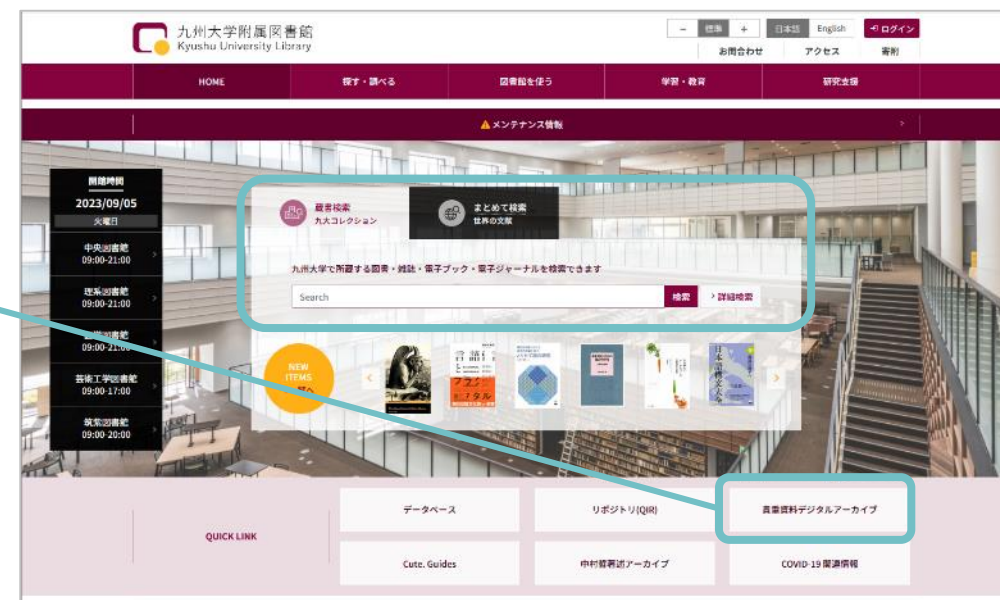
※メタデータについても公開、提供しています。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。



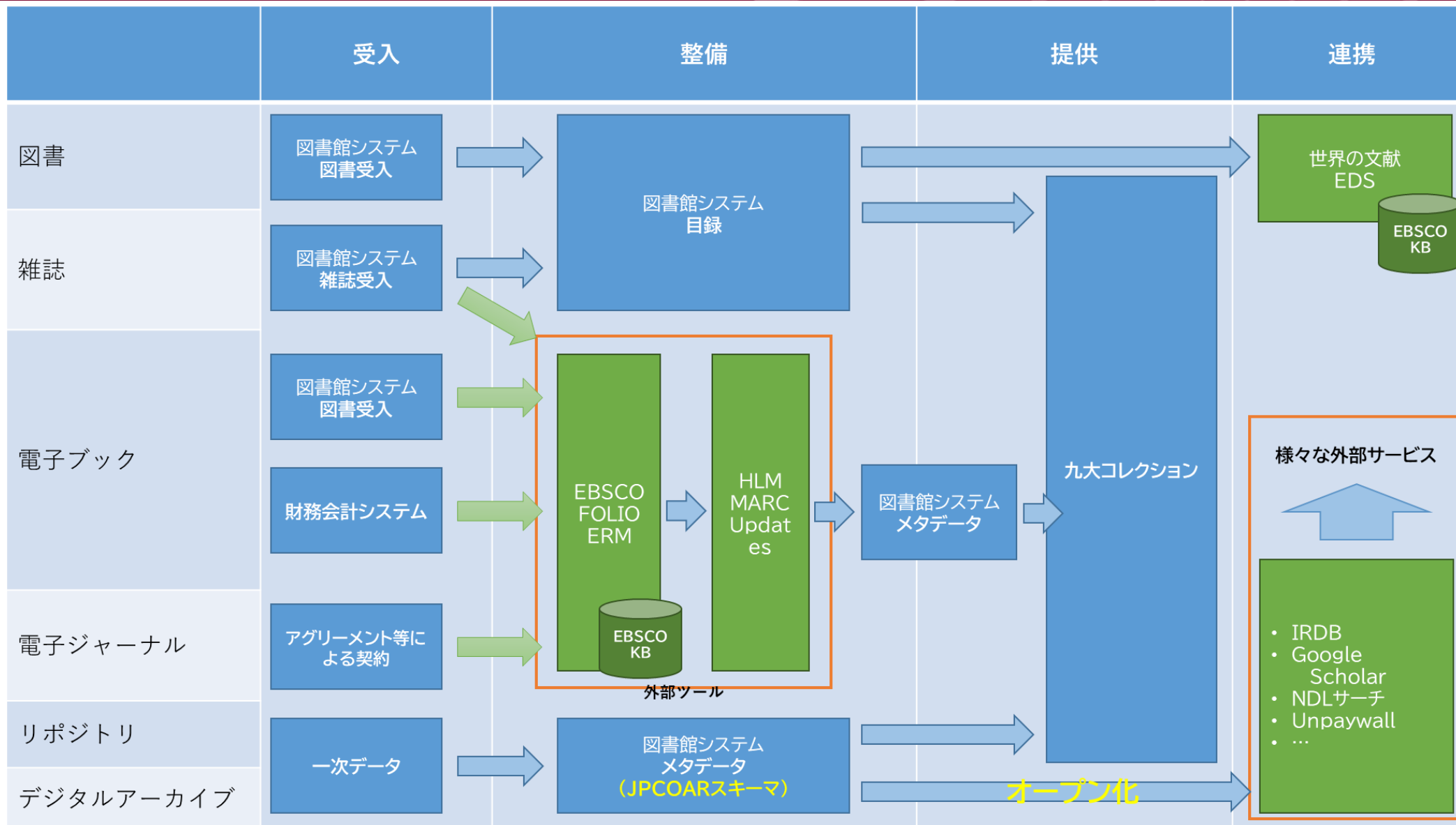
九大コレクションで公開しているデジタル画像(JPEGファイル)は、国際規格IIIF(International Image Interoperability Framework)に対応したビューワーで閲覧することができます。IIIFについて詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

## 九州大学が所蔵する貴重資料等をデジタル化し、「九大コレクション」にて公開

- 1996年度～ 画像データベースの作成開始
- 累積公開点数(2022年度末現在) 19,753点 643,876コマ  
(内 国文研NW事業 4,070点 199,437コマ)
- 新規公開点数(2022年度) 4,125点 204,210コマ
- 利用件数(2022年度) 289,234件(画像未登録も含む)



<https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/search/browse/rare>



## ■ メタデータの整備・充実

- JPCOARスキーマ採用(2017.12)
- タイトルのローマ字ヨミ(中国語の場合はピンイン)を追加
- 複数の号や字を持つ著者について、別名を追加
- 原資料の目録データと、デジタル化画像のメタデータの相互リンク
- 過去の展示会図録等にかかれた資料解説文を、デジタル化画像のメタデータに記述



## ■ 国際規格IIIF(International Image Interoperability Framework) に対応(2018.4)

## ■ 画像データの二次利用自由化(2018.10)

- パブリックドメイン:申請不要・商用利用含む・改変も可

## ■ メタデータをオープン化(2020.3)

## ■ 外部ウェブサービスとの連携

- 国立国会図書館サーチ(2016.11)、ジャパンサーチ(2021.10)

## ■ デジタルアーカイブを活用した電子展示会の実施

## ■ 画像データに永続的識別子DOI付与(検討中)







- 附属図書館研究開発室の教員との連携（1996年度～）
  - 様々な研究プロジェクトの一環としてデジタル化を継続的に実施
- 国文学研究資料館の歴史的典籍NW事業に拠点大学として参画（2016～2023年度）
  - 和本をデジタル化し、「国書データベース」と「九大コレクション」から公開
  - 2022年度までに約6,200点10,400冊撮影済み、2023年度に約1,600点2,400冊予定
- 台湾National Central Library（NCL）との漢籍デジタル化共同プロジェクト（2022年度～）
  - NCLが世界各国の機関に所蔵される漢籍をデジタル化・公開することを目的に実施
  - 九州大学所蔵の漢籍のうち、明版を中心に、21点240冊15,000コマをデジタル化  
→ NCLの「古籍與特藏文獻資源」と「九大コレクション」から公開予定
- 中村哲・九大プロジェクトによる「中村哲著述アーカイブ」の構築（2020年度～）
- Xプログラム「人文情報学連携学府」構想に関連した資料デジタル化（2022年度～）

## 中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト

[https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/pj\\_nakamuratetsu](https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/pj_nakamuratetsu)

令和5年度  
国立大学図書館  
協会賞

### 中村哲医師 メモリアルアーカイブ



展示スペース(中央図書館内)  
2021年3月オープン

デザイン:芸術工学研究院  
映像、グラフィックス、年表、書籍等で氏の言葉と活動を伝え、ガラススクリーンには、学生らが読書会を重ねる中で選んだ言葉が綴られています。

(管理運営)利用者サービス課

### 中村哲著述アーカイブ



デジタルアーカイブ  
2021年3月公開

氏が生前に書き著した文章や発した言葉をデジタルデータの形で収集・保存し、公開します。

九州大学学術情報リポジトリ QIR上に構築

登録コンテンツ数 1149点  
本文公開コンテンツ数 531点  
(2023年5月末現在)

(管理運営)eリソース課

### 中村哲記念講座 —中村哲先生の想いを繋ぐ—



基幹教育総合科目  
2021年夏学期開講(全8回)  
会場:中央図書館きゅうとコモンズ

対象:全学部の主に1年生  
中村哲先生がやってきたことの意味を理解し、それと同じ意味を持つことを実行するための考え方やヒントを学びます。  
2022年度以降も引き続き開講

(運営支援)eリソース課  
利用者サービス課



KYUSHU UNIVERSITY 九州大学「ウェル・ビーイングの実現に貢献する高度人文情報人材養成プログラム」プレゼンテーション資料

## ウェル・ビーイングの実現に貢献する高度人文情報人材養成プログラム 人文学×データサイエンスによる「人文情報学」大学院の設置

「人間存在」を中心的視点に据えたデータ活用により  
「ウェル・ビーイングな社会の実現」に寄与する専門人材

EBPMを推進する各種行政・公共機関  
SDGsなど人類社会の幸福を目指す各種企業



### 事業の必要性

データ分析・AIには、人間を中心とした視点が極めて重要。例えば、どのようなデータをどのような視点で分析するかを決めるのは人間。同様にAIについても「何を学ぶべきか」「何を正しいとするか」という根源的課題の担い手も人間。ゆえに、データ分析や人工知能により社会をよりよいものにしようとするならば、その上位概念として必ず「人間存在を中心とした視点」すなわち「人文学的視点」が必要。

### 養成する人材

- これまでの人類の歴史と共に蓄積された様々な人文学の知見に基づく「人間存在を中心とした視点」を持ち、さらにそれを用いて、例えばウェル・ビーイング社会の実現に相応しい「価値観」を考へることができる。
- 分野横断的な知識とスキルにより、情報管理やデータ分析を専門とする技術者との建設的な議論を行うことができる。
- さらに、自身の考えを具体的な分析タスクに落とし込んだり、さらにはデータ分析による限界や弊害を見出すためことができる。
- 必要に応じて、自分自身で必要な情報を管理し、プログラミング等によりデータ分析もできる。

### 事業概要

本事業では、人間存在を中心としつつテキストや画像を対象とした実証的な分析を強みとする「人文科学府」、情報やデータをどのように保存し管理するべきかという専門的な研究を行う「統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻」、また、人社系を含めた広い範囲に対してデータサイエンス教育を行う「数理・データサイエンス教育研究センター」、この3つを中心として、研究科等連係課程の枠組みを活用した「人文情報連携学府」（修士課程）を新たに設置し、人文学×データサイエンス「人文情報学」の学位プログラム（ダブルメジャー）を構築。

研究科等連係課程の枠組みを活用した  
「人文情報連携学府」の設置

人文科学府 人文基礎専攻・歴史空間論専攻・言語・文学専攻  
統合新領域学府 ライブラリーサイエンス専攻  
数理・データサイエンス教育研究センター

文理融合教育への強み ライブラリーサイエンス専攻：過去13年に渡る文理融合教育のノウハウ所有。数理・DS教育研究センター：過去5年間、文理の壁を越えたオープン型DS/AI教育を推進。

<https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/gdh/>

2022年度	Xプログラム スタート カリキュラム設計
2023年度	設置申請
2024年度	開講 準備 入試
2025年度	開講1年目
2026年度	開講2年目
2027年度	Xプログラム 総括

### 図書館職員による「資料デジタル化に関する説明会」 (2022.11.16)

- 附属図書館が提供する貴重資料デジタルアーカイブの概要
- 資料のデジタル化から公開までの流れ
- 画像公開ガイドライン・著作権のことなど
- 活用例

出典) 日本学術振興会. デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～  
Xプログラム～. 審査結果 令和4年度, 九州大学,

<https://www.jsps.go.jp/j-x-pro/selection.html>

## モルガン図書館&amp;博物館所蔵 スタンダール『パルムの僧院』手沢本のアーカイブ化



この情報を出力する

 印刷  
 メール送信  
 Mendeley出力

このページのリンク

引用にはこちらのURLをご利用ください  
<https://hdl.handle.net/2324/6791136> 



他の検索サイト

 世界の文献  
 CiNii Research (Articles)  
 CiNii Books  
 CiNii Dissertations  
 国立国会図書館サーチ  
 Google  
 Google Scholar  
 Google Books  
 カーリル

利用統計

<図書>  
**La Chartreuse de Parme, par l'auteur de Rouge et Noir 初版 1巻 (I)**

その他のタイ	パルムの僧院
トル	
巻号	1巻 (I)
責任表示	Stendhal
本文言語	フランス語
版	初版 First Edition
大きさ	22 cm
巻冊数	2v.
形態	八折り判 in-octavo
出版者	Ambroise Dupont
出版年	1839
出版地	Paris
バージョン	刊本
権利情報	本資料のダウンロード及び二次利用は禁止しております。 Downloading or reuse of the material is prohibited.
権利情報	画像は研究およびプレゼンテーションのためにのみ提供され、複製はできません。画像データや使用許諾をご希望の方は、モルガン図書館&博物館に直接ご連絡ください。 Images are provided for research and presentation only, not for reproduction. To request images and permissions, kindly contact the Morgan directly.
注記	モルガン図書館&博物館、ハインマン・コレクション The Dannie and Hettie Heineman Collection, in the Morgan Library & Museum 九州大学附属図書館にて原本の閲覧についての問合せには対応できません。原本はモルガン図書館&博物館に所蔵されています。画像データや使用許諾をご希望の方は、モルガン図書館&博物館に直接ご連絡ください。 Kyushu University Library is not the owner of this original text, but only has the digital images. The original edition is in the collection of The Morgan Library & Museum. To request images and permissions, kindly contact the Morgan directly: <a href="https://www.themorgan.org/research/photo-application">https://www.themorgan.org/research/photo-application</a>
概要	作者スタンダールが各頁に白紙を綴じ込み、加除の修正や備忘等を直筆で記した『パルムの僧院』初版の自家用本。通称「シャペール本」。 Stendhal's own copy of the first edition. Interleaved, with extensive additions and changes in the author's own hand.
所蔵情報へのリンク	<a href="https://www.themorgan.org/printed-books/174245">https://www.themorgan.org/printed-books/174245</a>

 本文ファイル

- 所蔵元の許可を得て、画像を九大コレクションでも公開  
<https://hdl.handle.net/2324/6791136>  
<https://hdl.handle.net/2324/6791137>
- 研究者がスタンダール自身による書き込みを翻刻
- 翻刻したテキストを注釈として画像に掲載(予定)

Cf.) 科研費・基盤研究(C), スタンダール『パルムの僧院』手沢本の研究, 2020年度~2023年度, 代表:高木信宏(九州大学)

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20K00473/>

- **新型コロナ対策**として、学内外の利用者から閲覧希望があった貴重書・準貴重書を随時デジタル化し公開（2020年度～2021年度）
  - 2020年度：48件、2021年度：19件
- 中央図書館貴重資料の**デジタル撮影・画像提供サービス**を開始 (2022.2)
- 九州大学基金の使途特定プロジェクト「九州大学デジタル資料整備事業」による貴重書等のデジタル公開の促進 (2021年度～)
  - 利用頻度が特に高い貴重書、修復しなければ利用困難な貴重書を優先して修復・デジタル化（目標金額：700万円）
  - 1度に10万円以上寄附 → 図書館所蔵の貴重書等から希望する1点を選び、デジタル化の依頼可能





## 研究開発事項（2023年度）

### I. 学習・教育活動との連携に関する分野

- 図書館による学習・教育支援に関する調査研究
- 図書館による教材開発および著作権処理に関する調査研究

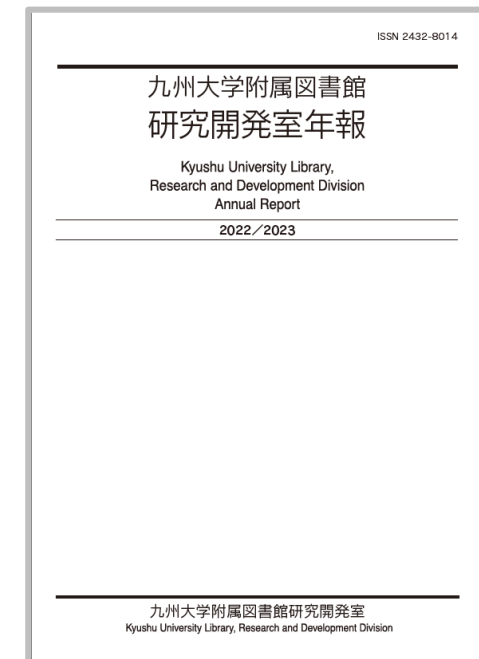
### II. コンテンツ形成および学術情報発信に関する分野

- 九州大学所蔵資料および資料保存に関する調査研究
- 図書館に係る学術情報の流通および発信に関する調査研究

### III. 図書館運営に関する分野

- 図書館における高度専門知識を有する人材育成に関する調査研究

⇒ 専任・兼任教員と図書館職員の教職協働による調査研究

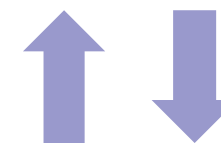


- 主に附属図書館が所蔵する様々なコレクションについて、**内容や価値、九大が所蔵するに至った経緯、活用事例等**について、各コレクションに関わる**学内外の講師**による講演の連続講座
- 第1期:2007年10月～2011年3月に全42回開催→『九州大学百年の宝物』刊行をもって一旦終了
- 第2期:2021年度から再開→年2回程度開催中
- Cute.Guidesに講習会の情報をまとめ、資料を学術情報リポジトリQIRで、動画を九州大学公式YouTubeで公開

回	開催日	講師	演題	会場	参加者数 (オンライン)	参加者数 (対面)	参加者数 (合計)
43	R3.06.18	竹村則行(名誉教授)	唐・玄宗「紀泰山銘」の原拓資料と銘文の概要	オンラインのみ	61	-	61
44	R4.01.26	赤司友徳(大学文書館准教授)	武谷棕亭の足跡 武谷文庫からみる幕末福岡藩の医事	中央図書館	54	11	65
45	R4.06.09	山根泰志(図書館企画課企画係) 中村智晴(収書整理課雑誌情報係)	資料探訪 廣瀬文庫本『筑前名所図会』について (図書館職員向け)	オンラインのみ	56	-	56
46	R4.10.27	ヴォルフガング・ミヒエル(名誉教授)	17世紀の日欧交流における医療と医学	医学図書館	45	28	73
47	R4.12.23	原口大輔(付設記録資料館講師)	「麻生家文書」の「二重」の整理過程	中央図書館	70	14	84

## 大学院ライブラリーサイエンス専攻 (LSS) と連携した人材養成

- 図書館職員がLSSの専任教員や講師として大学院の教育・研究に直接関与
  - 図書館の施設や資料を利用した演習
    - 例) 貴重資料デジタルアーカイブのメタデータ作成・撮影実習
  - 現場の課題をテーマにしたPTL (Project Team Learning)
  - インターンシップ
- 図書館職員が学生としてLSSに就学
- LSS修了生を図書館職員に新規採用
- 共同プロジェクトの実施
- シンポジウム、セミナー等の共催



九州大学大学院 統合新領域学府  
ライブラリーサイエンス専攻

⇒ 大学図書館員育成のための新たな仕組みを構築



- [シンポジウム「オープンデータとデジタルヒューマニティーズ」\(2017.1\)](#)
- [IIIFワークショップ in 九州\(2017.10\)](#)
- シンポジウム「情報管理専門職をめぐる民間企業と大学・学界」(2017.11)
- [Computational Archival Science \(CAS\) 講演会\(2018.1\)](#)
- ワークショップ「公文書管理法時代における自治体のとるべき施策」(2018.10)
- 国際シンポジウム「高等教育の国際化と大学図書館」(2018.12)
- [シンポジウム「オープンデータと大学」\(2019.1\)](#)
- セミナー「自治体がつくる公文書館理時代」(2019.10)
- [シンポジウム・ワークショップ「大学における研究データサービス」\(2019.12\)](#)
- セミナー「研究インパクト指標」(2019.12)
- シンポジウム「情報ガバナンスと文理融合教育の課題」(2020.1)
- [セミナー「はじめての研究データ管理とそのサポート」\(2021.2\)](#)
- シンポジウム「遠隔医療とデータ・ガバナンスの共創」(2021.3)
- シンポジウム「情報管理組織のミッションと専門職養成」(2021.11)
- シンポジウム「図書館と社会融合:社会に開かれた情報資源」(2021.12)
- [シンポジウム「DX時代の情報管理と人材養成:ライブラリーサイエンス専攻の挑戦」\(2023.1\)](#)
- [国際シンポジウム「大学における研究データ管理の意義と支援人材育成」\(2023.6\)](#)



# Digital Humanities(DH)に寄与するライブラリアン

- 研究基盤となるデジタルアーカイブの構築・運用 (=知の共有)
  - コンテンツのオープン化
  - メタデータの充実
  - 発見可能性の向上
- 学際研究・文理融合のための「場」の提供 (=知の創出)
  - 学内外の多様な関係者の「ハブ」となる図書館
- 人的支援 (=知の媒介)
  - 資料デジタル化に関するコンサルテーション
  - 教育への直接の関与
  - 教職協働による調査研究
  - 研究支援 → 研究協力



1. 鈴木親彦責任編集. 共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ. 勉誠社, 2023, 232p.
2. 日本デジタルアーキビスト資格認定機構編. デジタルアーカイブの理論と実践: デジタルアーキビスト入門. 樹村房, 2023, 108p.
3. 時実象一. デジタルアーカイブの新展開. 勉誠社, 2023, 304p.
4. 石田友梨ほか編. 人文学のためのテキストデータ構築入門: TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて. 文学通信, 2022, 421p.
5. 小風尚樹ほか編. 欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識. 文学通信, 2021, 495p.
6. 内田諭, 大賀哲, 中藤哲也編. 異分野融合研究のためのテキストマイニング: 知を再構築する. ひつじ書房, 2021, 260p.
7. 下田正弘, 永崎研宣編. デジタル学術空間の作り方: 仏教学から提起する次世代人文学のモデル. 文学通信, 2019, 383p.
8. 京都大学人文科学研究所・共同研究班「人文学研究資料としてのWebの可能性を再探する」編. 日本の文化をデジタル世界に伝える. 樹村房, 2019, 238p.
9. 岡田一祐. ネット文化資源の読み方・作り方: 図書館・自治体・研究者必携ガイド. 文学通信, 2019, 233p.
10. 国立大学図書館協会学術資料整備委員会デジタルアーカイブWG. 大学図書館におけるデジタルアーカイブの利活用に向けて. 国立大学図書館協会, 2019, 88p., [https://www.janul.jp/sites/default/files/sr\\_dawg\\_report\\_201906.pdf](https://www.janul.jp/sites/default/files/sr_dawg_report_201906.pdf)
11. 後藤真, 橋本雄太編. 歴史情報学の教科書: 歴史のデータが世界をひらく. 文学通信, 2019, 207p.
12. 赤間亮ほか編. 文化情報学ガイドブック: 情報メディア技術から「人」を探る: デジタル・ヒューマニティーズ. 勉誠出版, 2014, 209p.
13. 楊曉捷, 小松和彦, 荒木浩編. デジタル人文学のすすめ. 勉誠出版, 2013, 293p.
14. Wilson, Emma Annette. Digital Humanities for Librarians. Rowman & Littlefield, 2020, 227p.
15. Millson-Martula, Christopher; Gunn, Kevin (eds.) The Digital Humanities: Implications for Librarians, Libraries, and Librarianship. Routledge, 2019, 494p.
16. Kear, Robin; Joranson, Kate (eds.) Digital Humanities, Libraries, and Partnerships: A Critical Examination of Labor, Networks, and Community. Chandos, 2018, 199p.
17. White, John W.; Gilbert, Heather (eds.) Laying the Foundation: Digital Humanities in Academic Libraries. Purdue University Press, 2016, 229 p.
18. Hartsell-Gundy, Arianne; Braunstein, Laura; Golomb, Liorah (eds.) Digital Humanities in the Library: Challenges and Opportunities for Subject Specialists. Published in collaboration with the ACRL Literatures in English Section, 2015, 287p.